

「離島漁業再生支援交付金」の活用事例について

水産庁漁政部企画課

平成一七年度から始まった「離島漁業再生支援交付金」を活用し、産卵場の設置や養殖業への参入、流通体制の改善、観光との連携など、全国の離島地域でさまざまな取り組みが行われている。その活動事例をまとめた「離島漁業再生支援交付金活動事例集」のなかから、山形県酒田市飛島、鹿児島県長島町獅子島、長崎県五島市福江島、東京都八丈町八丈島、山口県萩市見島の活動を紹介する。

離島における漁業の再生を目指す「離島漁業再生支援交付金」については、平成一七年度の事業開始から四年が経過し、五年目を迎えています。この間、数多くの離島を有する市町村が本事業に参加し、離島漁業の再生に向けた取り組みが実施されてきました。

水産庁では、当交付金の活用事例について取りまとめた「離島漁業再生支援交付金活動事例集」を今般作成し、電子データの配布を開始したところです。本事例集では、各地域の離島で行われるさまざまな活動について、満遍なく

情報を掲載いたしました（詳細は水産庁「離島漁業再生支援交付金」のホームページ参照）。離島漁業再生支援交付金により活動を実施している集落だけでなく、漁業の活性化に取り組む漁業集落や地域の活性化を目指す市町村でも活用していただければと考えております。

今般、本事例集からいくつかの活動を抜き出してお紹介いたします。

表1 飛島の築磯整備状況

整備状況

- 平成18年度：法木地区の築磯(岩苔養殖場)補修整備を実施
大きさ：幅5m×長さ20m＝100㎡×2面＝200㎡
- 平成19年度：勝浦地区の築磯補修整備を実施
大きさ：幅5m×長さ15m＝75㎡×2面＝150㎡
- 平成20年度：中村地区の築磯補修整備を実施中(大きさは勝浦地区と同じ)。

ポイント

- 設計協議に漁業者の意見を反映
- コンクリート打設前に岩礁との密着性を高めるため、ミゾ切りを実施(縦・横とも2.5m間隔、深さ15cm)
- 工事には常時漁業者が立ち会い、コンクリート仕上げなどにかかる微妙な調整を指示

表2 飛島の岩ノリ収穫量

	年間収穫量(推定)		年間収穫高	1人当たりの収入
中村地区	2,400枚	15人×40枚×4回	2,400,000円	160,000円
勝浦地区	3,000枚	25人×30枚×4回	3,000,000円	120,000円
法木地区	3,240枚	27人×30枚×4回	3,240,000円	120,000円



岩ノリ養殖場の補修整備(飛島)。

1. 背景

冬は日本海が荒れるため、船の出漁が激減する。このため飛島では、岩ノリが冬期間の貴重な収入源となっている。収穫量の増加と安定的な収入確保を図るため、既存の築磯(海苔養殖場)の補修整備を実施した。

事例① 山形県酒田市・飛島

「産卵場・育成場の設置」(漁場生産力の向上に関する取組)

2. 活動の内容

平成五～七年度に島内三地区に一ヶ所ずつ整備したが、流木による破壊や岩ノリの付きが良くない箇所が生じ、近年、収穫量が減少傾向にあった。このため、平成一八年から三年計画で三ヶ所ともに全面補修を行い、収穫量増による収入増を図る。

3. 活動の経過とこれからの展望



風採の採取ノリ
景（飛島）

事例② 鹿児島県出水郡長島町・獅子島
「新規漁業・養殖業への着業」
（集落の創意工夫を活かした新たな取組）

1. 背景

長島では全島的にヒトエグサの養殖が盛んに行われ、所

昨年度は不作年に当たり収穫が平年に比べ落ち込んだが、今年は、法木、勝浦の二地区で順調に収穫が進められており、今期のこれまでの実績から来年度以降、表2のような収穫が見込まれる。収穫後は板のりに加工し、中卸業者などに一〇〇〇円／枚程度で販売している。

4. 担当及び連絡先

酒田市農林水産部農
林水産課 電話023
4・26・5753

属漁協の販売実績が四億円を超えるなど、主要漁業の一つになっている。地元ではヒトエグサと並行して行える新たな収入源を見いだそうと、経費や手間がかからず、比較的価格が安定しているヒジキに着目し、平成一八年度から試験養殖に取り組んでいる。

2. 活動の内容

集落で協議し、生産目標をロープ一メートルあたり一〇キロ（湿重量）に置いている。

ヒジキの種苗は、獅子島周辺に自生している天然の幼体を、ロープに三〇グラムずつ三〇センチ間隔で挟み込み、係留施設に張り込んでいる。約五ヶ月間育成した後、刈り取り、天日で乾燥させている。

3. 活動の経過とこれからの展望

ヒジキ養殖のメリットは、収穫が容易である上に天候、潮にも左右されないため、省力化、時間短縮が図られることである。挟み込み間隔を狭め、ロープの張り方を工夫することで、生長阻害の原因となる藻体のロープへの巻き込みが減り、収穫量は年々増加している。こうした状況から、漁協では、将来を見越し、平成二〇年九月に特定区画漁業権を取得している。

しかし現状では、生産目標には遠く及ばない上、品質的にも二級品レベルになっている。今後は多くの利益を出せるような技術を確立し、時化の多い冬場の収入源としてヒ

表3 獅子島のヒジキ養殖結果(平成19年度)

地区名	ロープ長	収穫量	kg/m(H18結果)	日数	養殖方法	養殖場所	株採取場所	株重量	挟み込み数	備考
幣串	252	223	0.88(0.77)	107	垂下式べた流し	赤瀬	串崎	36.2	739	14mmクレポリ
湯ノ口	200	151	0.76(0.45)	112	垂下式べた流し	赤瀬	湯ノ口	21.8	1,040	14mmナイロン
片側	150	503	3.35(5.04)	96	垂下式べた流し	南長瀬	長瀬	15.0	500	
御所浦	600	1,220	1.74(2.41)	107	垂下式べた流し	下別当南	野島, 中島, 蜂島	55.2	3,000	

※収穫量は湿重量 単位: m, kg, 円, 日



ロープへの挟み込み(獅子島)。



ヒジキ天然種苗の採取(獅子島)。



管理風景(獅子島)。



ヒジキの収穫(獅子島)。

1. 背景
 福江島の三井楽地区みいぐは、高級魚クエの水揚げが市内でも多い地区であるが、これまでは、漁業者個人が漁獲物の管理と出荷を行っていたため、出荷ロットと輸送コストが合わないなどの理由から高値期の出荷に限界があった。このため、集落で陸上活魚施設を整備し、市場動向に応じた

4. 担当及び連絡先
 ジキ養殖を定着させていきたい。
 鹿児島県北薩地域振興局農林水産部出水支所 電話09
 96・62・5915

事例③ 長崎県五島市・福江島
 「流通体制の改善」(集落の創意工夫を活かした新たな取組)

管理・出荷体制の構築に取り組んでいる。あわせて、定置網と一本釣の漁獲物についても活魚の直売を実施することにより、漁業所得の向上を図っている。

2. 活動の内容

クエの出荷調整のシステムは、漁業者が漁獲したクエを出荷前に集落の陸上活魚施設に預け、集落がこれを管理し、相場を見ながら出荷する体制をとっている。クエを施設に預けた漁業者は、手取りの二割を施設使用として集落に支払い、集落はこれを管理費に充てて運営している。

3. 活動の経過とこれからの展望

クエは通常一二月に価格が上昇するが、取り組み前の平成一九年と取り組み後の同二〇年を比較すると、同二〇年は一月の出荷量が減少したのに対し、二月の出荷量は増加している。単純な比較は難しいが、成果の一部ではないかと考えている（表4参照）。また、共同出荷が可能になったこ

表4 福江島三井楽地区のクエ出荷状況推移

年	月	出荷量 (kg)	販売額 (円)	単価 (円/kg)
平成19年	11	1,292	6,552,294	5,049
	12	841	5,151,511	6,125
平成20年	11	1,176	6,010,819	5,546
	12	1,610	10,064,701	6,669
平成20年－平成19年	11	△116	△541,475	497
	12	769	4,913,190	544



陸上の活魚施設（福江島）。

とで、個人の輸送経費削減にも繋がっている。直売については、現在のところ、地元業者への販売のみであるが、今後は個人販売やインターネット販売などを考えていく必要がある。

4. 担当及び連絡先

長崎県五島市水産課水産係 電話0959・72・7869

事例④ 東京都八丈町・八丈島 「観光との連携の取組」(集落の創意工夫を活かした新たな取組)

1. 背景

低迷している観光業と連携し、新たな遊漁であるトロリングを取り込むことで漁業者(遊漁兼業者)の経営の多角化を図り、漁家経営の安定を目指すとともに、八丈島の魚の普及を図る。

2. 活動の内容

遊漁案内を行う漁業者が中心となり、八丈島トロリング大会実行委員会を設立し、平成一八年度から大会を開催している。

実行委員会は、遊漁船業者、漁業者、漁協、釣り宿、観光協会、商工会、町、都の関係者で構成され、大会開催要領やルールなどを決めている。

八丈島の漁船を使用してトロリング大会に参加する形



水槽にストックされたクエ(福江島)。

トーキョー在住、海洋民族。



そこにクロシオの海がある。

2008 八丈島トロリング大会

開催期間 2008.6.1～2009.1.31
開催地 八丈島及び八丈小島周辺海域
主催 八丈島トロリング大会実行委員会 後援 八丈島漁協協同組合 八丈島観光協会

八丈島へのアクセス
羽田空港から直行便で50分
東京竹芝桟橋から船で11時間

お問い合わせ
八丈島トロリング大会実行委員会事務局（八丈島漁業協同組合内）
tel 04996-2-0211 八丈島観光協会 04996-2-1377

トロリング大会の広告（八丈島）。

式で開催している。また八丈島により多くの釣り人が来てもらえるように長期間（平成二二年度は五月から翌年一月末までの予定）の大会となっている。

3. 活動の経過とこれからの展望

平成一八年度は、初年度であったことから準備に時間がかかり、試験的な位置づけで大会を開催した。同一九年度から本格的開催となり、延べ参加者一三一名、同二〇年度には一〇五名となった。八丈島への経済効果を試算すると、おおよそ年間五〇〇万円となっている。

今後は、新規の釣り人の開拓や、リピーターの定着を図るため、国際フィッシングショーに出展しPRを行っている。



釣り上げられたカジキマグロ（八丈島）。

くとともに、受け入れ側である遊漁兼業者などに対し、トローリングの知識・技術の向上を目的とした研修会の開催などを計画している。

また、島の住民有志による、大会をサポートするためのガイド養成発足の動きもあり、釣り関係者を中心に大会を活性化する気運が年々高まっている。将来は観光面において、このトローリング大会が八丈島の主要なイベントの一つとして発展していくことが期待されている。

4. 担当及び連絡先

東京都八丈町産業観光課水産係 電話04996・2・1121

事例⑤ 山口県萩市・見島

「情報発信による地域活性化」

(集落の創意工夫を活かした新たな取組)

1. 背景

萩市見島は、周辺に好漁場を有し、漁業が基幹産業となっている。しかしながら、漁業を取り巻く環境は厳しく、高齢化・後継者不足が深刻となっている。そこで、島外にいる見島出身者を対象とし、島の現在の状況や島での就業支援などを掲載した情報紙「鬼ようず」を作成・発送し、里帰りなどによる地域活性化を図ることとした。

2. 活動の内容

見島の本村集落と宇津集落の二集落合同で取り組みを開始した。作成にあたり、両集落からなる編集委員会を設け、企画や内容について協議・検討を行った。情報紙の名前については、島に古くから伝わる伝統風になんで「鬼ようず」と名付け、これまで五号作成し発送した。

第一号では人口や産業の状況、居住環境や行事など島の現状について掲載した。二号・三号では主要産業である漁業と農業について、島で行われている漁種・漁法や栽培作物などを紹介し、また新たに漁業や農業を始めるにあたっての支援制度についても紹介した。第四号では漁業・農業関係者のほか、小・中学生にも取材し島の魅力を伝える内容とし、またこれまで寄せられた感想などを紹介した。第五号では時代とともに変わりゆく見島の歴史を紹介した。

3. 活動の経過とこれからの展望

情報紙に対して、さまざまな意見が寄せられ、定年後島へUターンしたいなどの声もあった。また、島内出身者ではないが、他県より新規漁業就業を目指して、一名が平成二〇年一〇月より研修を始めた。同二一年四月からも新たに一名が漁業研修を開始する予定となっている。情報紙は今後も継続して作成し発送を行う予定である。

4. 担当及び連絡先

山口県萩市農林水産部水産課 電話0838・25・3624